

授業科目名	作曲理論Ⅲ	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	高橋 裕	単位	2	年次	2, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

作曲を学ぶ者が必ず身につけなければならない和声学と対位法を学ぶとともに、ロマン派から近代音楽に至る室内楽や管弦楽団作品をアナリーゼし、自らの創作に生かしていく。

＝履修の条件と学習の方法＝

毎回、和声課題や対位法課題を家で実習したのを見るときともに、授業で室内楽や管弦楽をアナリーゼしていく。わからないことがあれば常に質問をし、理解をしていくように。

＝授業の概要＝

和声実習や対位法を学びながら、古典派、ロマン派、フランス近代音楽のアナリーゼを進めるとともに、ソナタ形式の楽曲を書くことができるようになる。

＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。古典派のピアノ三重奏曲のアナリーゼ（その1）。
- 2回 古典派のピアノ三重奏曲のアナリーゼ（その2）。和声実習。
- 3回 古典派のピアノ三重奏曲のアナリーゼ（その3）。和声実習。
- 4回 ロマン派の歌曲のアナリーゼ（その1）和声実習。
- 5回 ロマン派の歌曲のアナリーゼ（その2）和声実習。
- 6回 ロマン派の歌曲のアナリーゼ（その3）和声実習。
- 7回 ロマン派の弦楽四重奏曲のアナリーゼ（その1）和声実習。
- 8回 ロマン派の弦楽四重奏曲のアナリーゼ（その2）和声実習。
- 9回 ロマン派の弦楽四重奏曲のアナリーゼ（その3）和声実習。
- 10回 フランス近代音楽のピアノ曲のアナリーゼ（その1）ソナタの主題創作
- 11回 フランス近代音楽のピアノ曲のアナリーゼ（その2）ソナタの主題創作
- 12回 フランス近代音楽のピアノ曲のアナリーゼ（その3）ソナタの主題創作
- 13回 フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その1）提示部の創作
- 14回 フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その2）提示部の創作
- 15回 フランス近代音楽の室内楽のアナリーゼ（その3）提示部の創作

＝テキスト（必携）＝

新しい音楽通論 菊本哲也著 全音楽譜出版社

＝参考書・参考資料（必携）＝

アナリーゼの楽曲の楽譜はこちらで用意する。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

ソナタの主題創作を提出する。50%
楽曲のアナリゼを行う。50%

=その他=